

続 住宅ローンの金利引き下げ

2月号で「住宅ローンの金利引き下げられます」という記事を書きましたが、この記事を読んで取引銀行に電話した人から「月々の返済額を減らすことはできるが、金利の引き下げはやっていないと言われた。記事と違う」という話を聞きました。そこで早速、その取引銀行のホームページで本店にある金融円滑化の相談窓口へ電話をし、「金融円滑化法では、金利の引き下げを含めて相談に応じるとなっているのに、亀山の店ではやっていないと言われた」という話がある。どうなっているのか」と聞きました。

すべての職員に周知されていないようだ

相談窓口の担当者は、「あなたの言われる通り、金融円滑化法では、金利の引き下げを含めて相談に応じることになっており、うちの対応が間違っています。早速、支店に連絡をし対応をさせます。」という返事があり、翌日、その人のところに取引銀行が訪ねて来て改めて話し合いをしたとのことでした。

私はこの『議会報告』でお知らせしたことが、間違っていたということになれば責任問題になります。今回の出来事でわかったのは、金融円滑化法は成立しましたが、金融機関のすべての職員には周知されていなかったということでした。

(注)金融円滑化法は23年3月までの時限立法ですが、1年間延長する法案が国会に提出中です。

こうきの日誌(3月1日～3月27日) 赤旗の配達、集金活動等は除く

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1日 質疑・質問通告締め切り | 16日 教育民生委員会 |
| 2日 質疑・質問内容を理事者側が聞き取り | 17日 総務委員会(傍聴) |
| 3日 党会議 | 18日 西小学校卒業式 |
| 4、5日 市後援会「春のつどい」の準備 | 19日 予算特別委員会での質疑の準備 |
| 6日 野村コミュニティ文化祭 | 20日 南野町第1自治会総会 党演説会 |
| 市後援会「春のつどい」 | 21日 予算特別委員会での質疑の準備 |
| 7日 質疑・質問準備 | 22、23日 予算特別委員会 |
| 8日 質疑・質問準備 相談活動 | 24日 教育民生委員会 |
| 9日 本会議(議案質疑) | 25日 本会議(閉会) 会派代表者会議 |
| 10日 本会議(議案質疑、一般質問) | 亀山九条の会世話人会議 |
| 11、12日 本会議(一般質問) | 26日 関中校舎改築竣工式 議会報告づくり |
| 13日 石田鈴鹿市議事務所開き | 市議団ニュースづくり |
| 亀山ナンバーワン卒団式 | 27日 特別養護老人ホーム「野村きぼう苑」開所式 |
| 14日 本会議(一般質問) | 議会報告配布 大震災救援募金活動 |
| 15日 国保学習会実行委員会 | 市議団ニュースづくり 議会報告づくり |

この議会報告についてのご意見、ご感想をお寄せください

この議会報告は毎月月初めに発行しています

好きです 亀山 住みよい街に

2011年 4月 3日 発行 143

こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員 服部 孝規

〒519-0156 亀山市南野町6-19-1

ご意見、ご感想は ☎ 0595-82-3646 FAX 0595-83-4126

E-mail kouki@za.ztv.ne.jp 市議団ホームページ 「共産党 亀山」で検索を

東日本大震災

市議会として50万円の義援金を送ることに

春の訪れを告げる桜の花が咲き、気持ち^{なご}が和む季節になりましたが、今年はどうもそんな気になりません。3月11日、その日は議会本会議で、森議員が質問中でした。ゆっくりとした揺れを感じ、思わず「地震や」と声を出してしまいました。すぐに議会は「暫時休憩」となり、市内の状況の確認をすることになりました。会派室に戻りテレビをつけると東北地方を中心に津波の警報のニュースが繰り返し放送されていました。

以上が地震発生時の様子ですが、その後は地震より津波の被害がすごかったことや福島原子力発電所の重大事故の発生などみなさんのご存じの事態が起きました。

この地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、ご遺族や被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

大震災から2週間ほど経ちましたが、未だに死者、行方不明者の数がかつめられないほどの大震災で、かつて経験したことのないほど深刻な事態です。

議員提案で「決議」を提出 全会一致で議決

市議会として、とりあえずできることとして議員が積み立てをしている互助会から50万円を義援金として送ることを決め、議会最終日には、「東北地方太平洋沖地震災害に



関する支援と、災害に強い安心・安全なまちづくりを求める決議」を全会一致で議決しました。

今後とも様々な支援などが必要になりますが、市をあげた取り組みをするとともに市の防災計画を今一度見直し、地震などの天災は防げなくても被害を最小限に抑えることに全力をあげなければなりません。

(注)上の写真は、共産党亀山市委員会が取り組んだ街頭募金活動(関の地蔵院前)

市として300万円の義援金を送ることに

また、櫻井市長は議会最終日に、市として年度内(3月中)に日本赤十字社を通じて300万円の義援金を送ることを表明しました。

非正規化を進めてきた「行政改革」の見直しを

まず、次の片山総務大臣の発言を読んでみてください。『自治体はですね、地元の企業の皆さんに対しては、正規社員を増やしてくださいということをよく働き掛けるのですよ。当然ですよ。やはり正規雇用を増やしてくださいということ働き掛けるのですけれども、当の自治体が、自ら内部では非正規化をどんどん進めて、なおかつ、アウトソース(外部委託)を通じて官製ワーキングプアを大量に作ってしまったという、そのやはり自覚と反省は必要だろうと、私は思います。』(1月5日の記者会見)

正規職員と非正規職員の割合が半々という異常さ

3月議会では、下の表の通り現在、正規職員と非正規職員の割合が半々というあまり

正規職員数	571人
非正規職員数	558人
合計	1,129人

にも異常な職員体制を取り上げました。これは、「定員適正化」の名の下で国に押しつけられてきた「行政改革」の結果、本来、正規職員がすべき仕事まで非正規

職員に置き換えてきたことによるものです。上の片山総務大臣の発言は、あまりにも行き過ぎた自治体の非正規化に警告を発するとともに、その結果、あまりにも安い賃金で働く非正規職員や外部委託で働く労働者など「官製ワーキングプア」を大量につくってしまったと反省の弁を述べているのです。

例えば、保育園の担任をしている非正規職員は、正規職員とかわらない仕事をしながら、賃金などに大きな差があります。こうした本来、正規職員がすべき仕事を非正規職員に置き換えているのを改めるべきです。

非正規職員の賃金の見直しを求める

また、非正規職員の賃金が現在、28の区分がされていますが、平成16年度には18区分しかなく、19年度には23区分になり、年々細分化されています。現在の賃金表を見ると同じような仕事をしているのに、職名を別にして賃金に差をつけています。

市役所の仕事は、チームワークでやる仕事が多く、理由のない賃金差別は良い仕事ができない大きな原因となり、市民サービスにも悪影響を与えます。予算特別委員会では、こうしたあまりにも細分化された賃金表を見直すように求めたところ、総務部長は「23年度中の見直しで検討する」と答弁しました。



野村の特別養護老人ホームが開所

3月27日、野村に建設中だった「特別養護老人ホーム」の開所式が盛大に行われました。4月からいよいよスタートしますが、入所者だけではなく地域と結びついた「みんなの施設」として活用されることを期待しています。

待機児童対策 市が認可外保育園をつくるのは問題 介護予防支援センターを6月末で廃止

3月議会で、様々な議論がされた議案の1つに「待機児童緊急対策施設整備事業」があります。これは、介護予防支援センター(旧保健センター)を6月末で廃止し、需要が増えている0~2歳児で保育園の入所待ちをしている児童を受け入れる認可外保育施設(最低基準を満たしていないなど児童福祉法上の保育園に該当しない施設)を設置し、合わせて市立医療センターの病院内保育園(医師や看護師などが対象)の機能も併せ持つ保育園で、15人(院内保育5人を含む)の入所を予定しています。

給食室がなく(デリバリー給食)園庭もない

認可外保育園となるのは、1つは給食室がなく、デリバリー給食にすることともう1つは、屋外遊戯場(園庭)がないため、児童福祉法の最低基準を満たしていない保育園であるためです。

党議員団は、市が認可外保育園をつくること自体問題であり、保育環境や保育内容で他の公立保育園との差ができるような保育園は問題だと批判しました。さらに、保育園をつくるのであれば、最低基準を満たすように給食室と屋外遊戯場もつくり、認可保育園とすべきであると主張しました。また、待機児童が平成20年度に15人、21年度には31人、22年度にも30人出ているのに、この間、保育園の増改築などの十分な対応をしてこなかったことが緊急にこうした認可外の保育園をつくることになった原因であることを指摘しました。来年1月の開園までに指摘した点の改善を引き続き求めていきます。

(注)施設改修等で3,700万円、来年1月開園のため運営費は3ヶ月で900万円。

愛川欽也さん 原発事故を「想定外とは言わせない」

3月19日放送のCS放送朝日ニュースターの「愛川欽也パックインジャーナル」で司会の愛川氏は、福島原発で事故が起こる危険性を指摘してきた日本共産党の姿を紹介し、「想定外とは言わせない」と国や東電の言い逃れを批判しました。

(中略)日刊スポーツ(15日付)のコラム「政界地獄耳」を紹介。同コラムは、日本共産党福島県委員会が07年に東電に対し、チリ級津波が発生すれば機器冷却の海水取水ができなくなり、最悪の場合は、冷却材喪失による過酷事故に至る危険があることを指摘してきたことを取り上げ、愛川氏は、「同様の質問は国会でも(共産党が)質問し続けられたが、安全だという答弁でかわされた。となればこれは人災とも言える」とのコラムを読み上げ、「こういうことを言っている人がいるんですよ」と述べながら、福島県議会でも共産党が質問してきたことを紹介しました。

